

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金 手形売却損	19,500 500	受取手形	20,000
2	売買目的有価証券	202,000	当座預金	202,000
3	当座預金	300,000	手形借入金	300,000
4	当座預金 旅費交通費	20,000 80,000	仮払金	100,000
5	未収金	1,100,000	土地 固定資産売却益	1,030,000 70,000

・解説

1. 手形取引に関する問題です。日商簿記検定 3 級の可否は「難しい問題を解けたかどうか」ではなく、このような簡単な問題を正解できるかどうかで決まります。本問はテキストで説明に使われるレベルの簡単な問題ですので、間違えてしまった方は必ずテキストに戻って復習しておいてください。

本問で問われている手形の割引とは、**満期日前に手形を現金化したい場合に、銀行に持って行って換金すること**を言います。イメージ的には以下のような感じを想像していただければ分かりやすいと思います。なお、利息相当分は「手形売却損」として認識することになります。

- ・当社「満期日前にお金が欲しくなったから、銀行さん、手形の割引お願いしまーす」
- ・銀行「はい。でも満期日前だから、今日から満期日までの利息相当分を引かせてもらいますよ。」
- ・当社「それでは利息相当分を引いた残りを当座預金として入金してくださいな」
- ・銀行「じゃあ、利息相当分を引いた残額を当座預金口座に振り込んでおきますわ」

手形売却損は以前、「支払利息割引料」勘定を使って処理していましたので、古いテキストで勉強されている方は支払利息割引料で覚えてしまっているかもしれませんが、本試験では手形売却損として出題されますのでご注意ください。

また、支払利息割引料は期間の経過に応じて費用化し、未経過のものは前払利息割引料として資産に計上していましたが、手形売却損は「金融資産の売却損」ですから、**全額当期の費用として認識**さ

れます。

2. 有価証券の購入に関する問題です。短期的に売買する目的で有価証券を購入した場合は、取得原価に付随費用（取得に伴い発生した費用）を含めて資産計上することになります。

有価証券の取得原価＝購入代価＋付随費用

ここで注意していただきたいのは、期末評価時や売却時の単価計算も**付随費用が考慮された数字**になるということです。本問では、有価証券自体の単価は100円ですが、付随費用を考慮した場合、単価は202,000円÷2,000株＝101円ということになります。

なお、有価証券の購入に関する問題は、第103回の間5や第108回の間4、第121回の間5、第124回の間5でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

3. 手形による借り入れに関する問題です。問題文に「**約束手形を振り出して300,000円を借り入れ**」とありますので、手形借入金勘定を使って仕訳を切ることになりますが、支払手形や受取手形勘定を使ってしまった方がいらっしゃるかもしれません。

借り入れに当たって振り出した手形は借用証書の代わりになりますので、**通常の借入金と区別するために手形借入金勘定を使って処理**します。ちなみに、仕訳の考え方や処理方法は借入金と同じです。

この問題は、問題文の「**約束手形を振り出して300,000円を借り入れ**」というところがポイントになりますので、見落とさないように注意してください。問題文を読んだ際にアンダーラインを引いたり、丸で囲むなりして強調しておくとしが減りますので、ケアレスミスが多い方は試してみてください。

手形による借り入れに関する問題は、第107回の間3でも出題されていますので、本問と併せて学習するようにしてください。

4. 仮払金に関する問題です。本問はまず、問題文なお書きの「従業員に対しては、出張に当たり、旅費の概算額100,000円を手渡していた」という部分の仕訳を起こしてみるといいと思います。

(借) 仮払金 100,000 / (貸) 現金など 100,000

上記のような仕訳が切られたことを前提にして、仮払金を適当な勘定科目に振り替えることとなりますので、貸方に仮払金勘定が、借方に旅費交通費勘定が入ることが簡単に分かります。

■仮に旅費が 120,000 円だった場合は・・・？

→足りなかった 20,000 円の現金支出を認識することになります。

(借) 旅費交通費 120,000 / (貸) 仮払金 100,000
(貸) 現金 20,000

仮払金に精算に関する問題は、「**仮払いした際の仕訳を考えてみる**」ことがポイントになります。慣れるまでは実際に下書き用紙に書き出してみるといいと思いますが、慣れてきたらなるべく頭の中で仕訳をイメージして解答できるようにしておいてください。

なお、仮払金に関する問題は、第 100 回の問 4や第 110 回の問 3、第 115 回の問 5、第 124 回の問 4などで出題されていますが、本問と第 124 回が「仮払金の精算時の仕訳」を問う問題になっているのに対して、その他の問題は「仮払金の計上時の仕訳」を問う問題になっていますので、仮払金処理の一連の流れを理解したい場合は、【計上時の仕訳問題→精算時の仕訳問題】の順番で解くようにすると、流れが分かりやすくて良いと思います。

5. 固定資産の売却に関する問題です。固定資産の売却損益は、**売却直前の帳簿価額と売却価額の差額**により算定します。

本問の場合、売却直前の帳簿価額は【購入価格 1,000,000 円＋購入手数料 30,000 円＝1,030,000 円】となりますので、これと売却価額 1,100,000 円とを比較して、売却益の 70,000 円を計上することになります。

また、売却代金 1,100,000 円に関しては商品売買以外の取引から発生した債権ですので、売掛金勘定ではなく未収金勘定を使って仕訳を切ることになります。

固定資産の売却に関する問題は、第 102 回の問 2や第 105 回の問 2、第 108 回の問 1、第 115 回の問 4、第 120 回の問 3、第 122 回の問 5でも出題されていますので、併せて押さえておくようにしてください。